

『高松港5万トン級岸壁』

高松港には大型旅客船が横付けできる大型岸壁があり、国内外の様々な大型船が入港します。当初の岸壁長は225mで2万トン級までの船舶しか横付けできなかつたのですが、2011年の接岸設備拡大工事で係船柱を3つ増設したことにより5万トン級の大型客船の入港が可能になりました。日本国内には2万トンを超える大型客船は4隻あり、5万トン級は日本郵船グループの「飛鳥II」があります。2012年10月25日14:30にはこの「飛鳥II」が高松港に初入港する予定です(2012年8月現在)。今回の土木紀行ではそれを記念して、これまでに高松港に入港した著名な客船等を紹介したいと思います。



写真1 高松港5万トン級岸壁に接岸する「ふじ丸」

写真1～3は、2012年8月28日に撮影した高松港5万トン級岸壁周辺と日本チャータークルーズが運航する「ふじ丸」です。「ふじ丸」は日本のクルーズ客船の嚆矢として1988年に進水し、その当時、日本籍の客船としては最大でした(総トン数23,235トン、全長167m、163室600名)。1988年は瀬戸大橋が開通した年でもあります。この「ふじ丸」は東日本大震災の支援活動にも参加しています。



写真2 広大な5万トン級岸壁と「ふじ丸」

写真4～7は2011年11月17日に停泊していた「海王丸(2代目)」です。民間の寄付により建造され1989年に就航しました。現在は独立行政法人航海訓練所に用船契約される形で運航されています(総トン数2,556トン、全長110.09m、最大搭載人員199名)。メインマストの高さは船楼甲板から43.5mもあります。ちなみに鳴門大橋、明石海峡大橋、瀬戸大橋(南備讃瀬戸大橋)、しまなみ海道(来島海峡大橋)の航路高は鳴門大橋のみが41mで、他は全て65mですので鳴門海峡だけ通過できません。全長が110mなので5万トン級岸壁に対してとても小さく映ります。



写真3 美しい「ふじ丸」船尾



写真4 「海王丸」船首



写真5 「海王丸」船尾



写真6 「海王丸」船首（夜景）



写真7 「海王丸」船尾（夜景）

写真8～9は2011年9月28日に入港していた「ぱしふいっくびいなす」です。日本クルーズ客船が運航する旅客船で1998年に就航した日本籍で2番目に大きなクルーズ客船です（総トン数26,518トン、全長183.4m、乗客定員696名、乗組員数204名）。船の横に見えるテント（写真8）は旅客専用の「うどん屋台」で、讃岐の雰囲気味わって貰うためのサービスのようです。高松にやってきた旅客は、栗林公園（高松市）や、古い港町の引田（東かがわ市）に出かけるようです。



写真8 「ぱしふいっくびいなす」船首



写真9 「ぱしふいっくびいなす」船尾

客船以外の珍しい船としては、写真 10～13 の南極観測船「しらせ（初代）」があります。写真は 2005 年 10 月に高松港に入港したときの「しらせ」です。この船は砕氷艦（自衛艦）であり、乗員は全て海上自衛官です。1981 年に進水し、1982 年から 2008 年まで南極観測に従事していました。退役した現在は千葉県船橋港にて一般公開されています。基準排水量 11,600 トン、全長 134m で、170 名の乗員と 60 名の南極観測隊員、そしてヘリコプターを 3 機も搭載できます。



写真 10 南極観測船「しらせ」



写真 11 南極観測船「しらせ」



写真 12 「WE LOVE 高松」



写真 13 「しらせ」に搭載されたヘリコプター

いままで紹介したように、高松港の 5 万トン級岸壁には様々な船がたびたび接岸します。紹介した他にも東京海洋大学、広島大学、神戸大学の練習船や実習船、大型客船「にっぽん丸」、独立行政法人航海訓練所の練習船「青雲丸」等がやってきます。5 万トン級岸壁の入港予定は [「サンポート on the Web」](#) で航海されていますので、興味のある方は是非見て下さい。

土木構造物は縁の下の力持ちであることが多いですが、今回紹介した岸壁はその最たる例だと思います。普段は気づかないけど、なければ困る空気や水のようなもの。それが土木構造物です。

土木学会四国支部「土木紀行」 <http://doboku7.sakura.ne.jp/kikou/kikou.htm>

土木学会四国支部 <http://www.jsce7.jp/>

徳島大学大学院 ソシオテクノサイエンス研究部
教員 田村隆雄